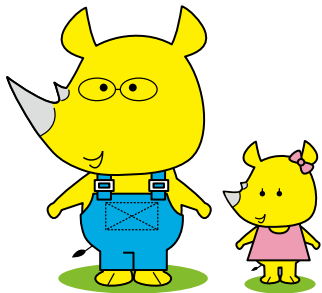
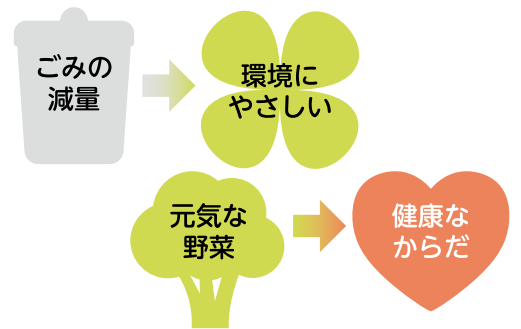


サイチョの マジックダンボール 取扱説明書

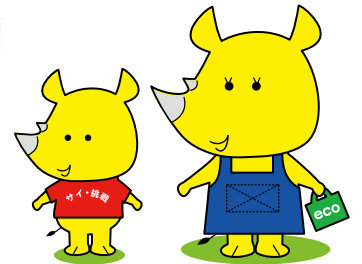
身近な段ボール箱を使って、生ごみを堆肥化しませんか？

「サイチョのマジックダンボール」を使うと、箱の中に入れた生ごみが、菌ちゃん(微生物)の力でどんどん分解します。できた堆肥を使っておいしい野菜やきれいな花を育ててみませんか？



4つのルール

- ① 毎日生ごみを入れる
- ② 毎日まぜる
- ③ 菌ちゃんとともにだちになる
- ④ 楽しみながらつづける



「サイチョのマジックダンボール」セット内容



内袋

水分と空気を通して生ごみと基材を混ぜるのにとっても便利！



段ボール箱

通気性を良くするため、底板を入れて箱を強化しています。

基材

竹からできた竹パウダーやキノコの菌床などをリサイクルした基材です。

- ★大きさ (縦31cm×横43cm×高さ36cm)
- ★重さ (約4kg)

はじめて使う前に！（始める前の準備）

①箱から基材と説明書を取り出します。



②ビニール袋に基材の3分の2と米のとぎ汁(もしくは水)1ℓを入れてよく混ぜてください。一晩置くと、水分をしっかりと含むことができます。

- ★基材は乾燥しているの、屋外での作業をおすすめします。
- ★残りの基材は、水分調整のために残しておきます。



③基材をビニール袋から取り出し内袋に入れてください。



- ★生ごみは、基材がしっかりと水分を含んでから入れましょう！水分をしっかりと含むことで、微生物が元気に活動をはじめます。



生ごみを入れてみよう！

①基材に生ごみを入れます。
(1日300g程度：三角コーナー1杯分)

- ★基材が水分を含みすぎているか確認してから入れてください。
- ★生ごみは細かく刻んで、軽く水分を切ってから入れると早く分解します。
- ★約2～3カ月生ごみを入れると堆肥ができます。



②生ごみと基材をよく混ぜてください。混ぜた後は、できるだけ基材の表面から生ごみが出ないようにしましょう！

- ★手やシャベルなどでよく混ぜ、ダマ(かたまり)ができたときは、細かくしてください。また、シャベルは虫が卵を産み付けないように、箱の中に入れてままにしましょう。
- ★水分量の目安は、軽く握って形が残る程度です。生ごみを入れて混ぜるときに、水分調整をしましょう。水分が多すぎると分解ではなく、腐敗が進みます。
- ★基材の中に空気がたくさん入ることで、微生物が元気に活動し、生ごみが早く分解します。
- ★量が増えて混ぜにくくなったときは、一度基材をビニール袋に入れたり新聞紙を利用したりして、全体をよく混ぜてください。



③最後にふたをして作業は終わりです。
雨のあたらない、あたたかい、
風通しのよい場所に置きましょう。

- ★分解が進むと余分な水分が箱の表面から蒸発するため、壁から少し離して置いてください。(屋内・屋外どちらでもOK)

④楽しみながら続けましょう！

- ★生ごみを入れて混ぜるときには、水分量をチェック！水分が多いときや生ごみが多いときは、残りの基材を入れて水分調整をしてください。

どんな生ごみを入れればいいのか？

★入れてもいいものは？

●生ごみ

(調理くずや食べ残しなど)



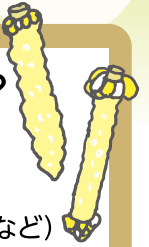
※腐敗した生ごみや洗剤のかかったものは入れないでください。
※スイカの皮など水分が多いものは、細かくきざんで絞り、水分をよく切ってから入れてください。水分が多すぎると、腐敗が進んでしまうため、入れすぎには注意してください。



★入れない方がよいものは？

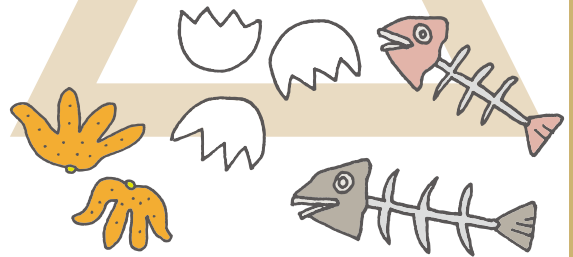
●せんい質が硬いもの

(とうもろこしの芯・葉、玉ねぎの皮など)



●魚類、卵の殻、柑橘類の皮

※分解するまでに時間がかかったり、ニオイが出るので入れない方がよいです。入れる場合、魚類は加熱し、卵の殻などは細かく刻んで水分をよく切ってから入れてください。



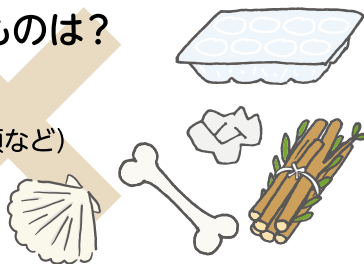
★入れてはいけないものは？

●生ごみでないもの

(プラスチック類、紙類、木類など)

●硬いもの

(貝殻や大きな骨など)



堆肥を作ってみよう！

箱がいっぱいになったら、生ごみの投入をやめて、堆肥を作りましょう。毎日入れる生ごみの量にもよりますが、約2～3カ月後、箱の8分目くらいになり混ぜにくくなったときが、堆肥作りの目安です。

★箱の中身の半分を堆肥にし、残りの半分で生ごみの投入を続けることもできます。

未熟な堆肥を使用すると、土の中で発酵し、植物の根を傷めてしまうので注意しましょう。

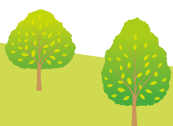
●カキ殻を粉末にした貝化石灰を入れることで土のPHが調整され、ミネラルも供給できるので、植物がより元気に育ちます。

★ビニール袋を使って堆肥を作る方法

- ①入れた生ごみがすべて分解したら、箱の中身をビニール袋に入れて空気を抜き、口を閉じて暗い場所に1カ月程度置いてください。その間も時々水分調整をしてください。
- ②次のa、bどちらかの方法で、さらに完熟させます。
a：堆肥を植物のまわりの土の表面に軽くまき、1カ月程度経ったら土と混ぜてください。
b：堆肥1に対して土4の割合でよく混ぜ、2週間程度寝かせてから畑やプランターでお使いください。

★土に下ろして堆肥を作る方法

- ①箱の中身を土(もしくは使い終わったプランターの土)に下ろします。土に下ろした中身はビニールシートを被せて日にあてます。
- ②週に一度、水分調整をしながら軽く土を混ぜます。雨にぬらさないよう注意しましょう。
- ③1カ月程度で完熟します。できた堆肥1に対して土4の割合でよく混ぜ、畑やプランターでお使いください。



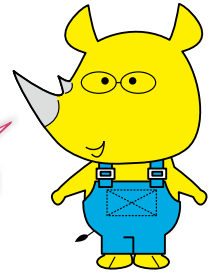
よくある質問

★いつ始めればいいですか？ どのように使用すればいいですか？

1年を通して使用することができるため、好きなタイミングで始められます。堆肥として使用したい時期から逆算して使い始めることをおすすめします。

(例) 7月に堆肥を使いたい場合3月頃に始める。

寒い時季には、お湯を入れたペットボトルを基材に埋めると温度を上げることができるよ！



サイチョパパ

★基材は一度しか使うことができませんか？

箱が8分目になったら半分の基材は堆肥にし、残りの半分の基材にずっと生ごみを投入することができるため、繰り返し使用することができます。

また、基材のみ1袋400円(税込)で販売もしています。

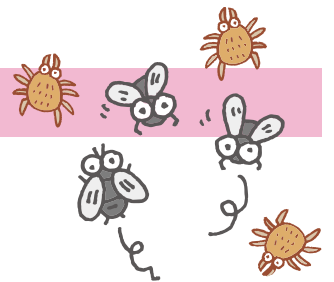


★水分量が多く段ボールがぬれてしまったらどうしたらいいの？

生ごみの投入を一旦やめ、残っている基材を足したり、日にあてて水分量を調整したりしてください。再開するときは、基材の状態を見ながら生ごみを入れてください。

★虫が発生したけど、どうしたらいいの？

虫は箱に投入する前の生ごみや箱の隙間から入って卵を産む場合があります。また、水分量が適量でない場合に虫は発生します。水分量の目安は、軽く握って形が残る程度です。



●微生物による分解が進み、基材の温度が高くなると虫は死滅します。
廃食用油、天かすなどを入れると、温度を上げることができます。

●基材が入った内袋をビニール袋に入れ、空気を抜いてから天日干しにしてください。一時的に温度を上げると虫は死滅します。



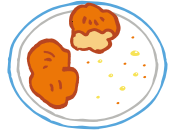
●古布(Tシャツや薄手の布など)をかけてから箱のふたをすると、虫の侵入を防ぐことができます。



★生ごみがなかなか分解しません…

生ごみを投入した直後は分解に時間がかかります。1週間程度で分解が進むことにより温度が上がり、条件を整えば40℃以上になります。カロリーの高い生ごみ(食べ残し、果実など)は分解が早く、野菜くずなどは時間がかかります。

冬は気温が低くなり、分解が遅くなるので、あたたかい場所または屋内に設置してください。また、水分が足りなくなるのも原因の1つですので、微生物の好物である米のとぎ汁などを入れてください。



● 温度が上がるとより早く分解が進みます。生ごみに米ぬかや廃食用油を混ぜてから入れると温度は上がります。

● お湯を入れたペットボトルを基材に埋めると、温度を上げることができます。

● 分解に時間がかかる野菜くずなどを入れるときは、細かくきざむと分解しやすくなります。

★カビのようなものが発生しました。大丈夫ですか？

分解が順調に進むと白いカビのようなものが発生することがありますが、これは菌の活動によるもので、順調に分解している目安です。



★毎日生ごみを入れることが難しい…

数日間生ごみを入れず混ぜないでいると、菌の活動は休止状態になります。再開する時には、次の2点に注意してください。

- ① よく混ぜる
- ② 水分調整をする

★使い終わった段ボールはどうすればいいですか？

汚れがひどいものは、燃やすごみとして指定袋に入れて出してください。

汚れが少ないものについては、古紙類として出すことができます。折りたたんで、ひもで十文字にしばって出してください。

また、基材があれば繰り返し使うことができます。

箱の下に木片やブロック、すのこ、網目状のケース等を置くと、底の通気性がよくなるよ！



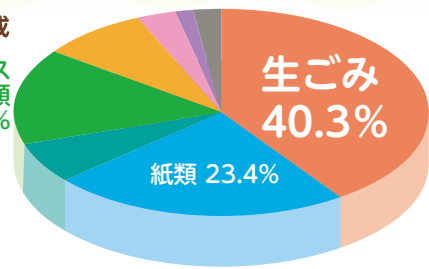
サイチョのマジックダンボールはいかがでしたか？

毎日家庭から出る生ごみ……

「燃やすごみ」の約4割は生ごみです。
生ごみ減量のため、食材は使い切り、
できるだけ料理は食べきるようにしましょう。

<平成30年度>
燃やすごみの組成

プラス
チック類
15.2%



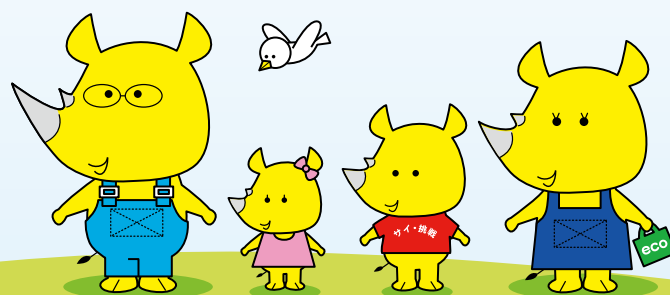
「サイチョのマジックダンボール」は、ごみの減量とCO₂排出量を削減する環境にとってもやさしい取り組みです。さらに、できた堆肥を使うと、花や樹木も元気になり、安全でおいしい野菜を収穫することができます。菌ちゃん(微生物)と楽しみながら、生ごみによる元気な土づくり・野菜づくり、そして健康なからだづくりを目指しましょう！

利用者の声

- 生ごみが減り、指定袋の大きさが小さくなりました。
- 野菜をきざむことで、野菜にふれる時間が多くなり、野菜について興味深くなりました。
- 自宅で堆肥を作っていると思うと、生ごみを無駄にせず、きちんと生かしているんだというひそかな楽しみと充足感がありました。

これからも「サイチョのマジックダンボール」を

ご活用ください。



【お問い合わせ】

新潟市 環境部 循環社会推進課 〒951-8550 新潟市中央区学校町通1-602-1
TEL 025-226-1391 メールアドレス junsui@city.niigata.lg.jp